

この頃思う事・1

～女性と仕事、女性と職場について思うこと～

岩手県男女共同参画サポーター(釜石市)
岩切 久仁

職場を離れ、家にいるようになって20数年が経ちました。その間に釜石市の男女共同参画推進協議会の一員となりました。時代の変化とともに私の視点もいろいろ変化をして来ました。

私が働き始めた昭和30年代後半頃は、仕事の内容が事務職ですと、男女の担当業務は、一部を除いては、大体の業務が性別で固定されていたように思います。重要な会議は男性だけが一室に集まり行われ、女性はその会議結果の報告すらされませんでした。女性の仕事といえば、男性の隣に座り、その男性の補助的な仕事がほとんどでした。

「男性と女性とではどんな差があるのだろうか？」

昇給・昇格においても女性が遅れる状況に、若い私は、その差に何度も挫折感を抱いたりもしましたが、それが当たり前の時代でした。

しかし年代が進み、昭和50年代頃になると事務機器が発達し、職場にワープロやパソコンが導入され普及し始めました。私のいた部署にも何台かのパソコン、ワープロが導入されました。すると、片手間にしていたお茶くみや書類のコピー、文章の清書などの仕事は一変し、管理者といえどもパソコンを

操作して、自分の仕事を明文化する時代となったのです。仕事も大きく変化し、打合せにも声を掛けられるようになりました。来客用のお茶出しは、給茶機が導入された事で、男性でも「するべき」という状況が出来ました。私もこの頃にはキャリアも積み、一応は男性担当者レベルになれたのではないかと思います。

そして現代、女性の担当者も、ある程度責任のある仕事を落ち着いて出来るようになったと思いますがいかがでしょうか？過去の時代とは違い、男性に交じって大切な会議にも出席されている女性も多くなっています。釜石市では、審議会等における女性委員の比率が、34.8%にもなったそうです。

家庭に入るとさらに、世の中には沢山の種類の様々な男女差別が存在していることを感じるにつけ、残念さを感じる事もありますが一方では、このように男性・女性の性別に関係なく、ひとり一人の個人の能力が評価される時代にもなりつつあるとも感じます。これは長い間、国・県・市町村や心ある人々、理解ある人々の男女共同参画社会推進の啓蒙運動のたまものと思っております。

平成29年7月24日作成



